

週日の説教

金 大烈 神父 2009年4月23日(木)

《御子を信じる人は永遠の命を得ているが...》

今日の福音(ヨハネ 3・31 - 36)を読みますと、当然私たちは上から来られた方に属していますね。上から来られた方を信じています。しかし悪魔は私たちを放っておくはずはありません。ですから、私たちは天に属している、と言いながらも天に属しているものに相応しい心や振る舞い、考え方を持たなければならないのです。なぜなら、悪魔はいつも狙っているからです。それを誘惑といいます。

分かりやすくてたとえを話します。ある人が一生懸命に立派なことをしたとします。その人には、やはり、誰かに褒められたい、という気持ちが心の中に必ずあります。それは人間の自然な心理です。しかし、もし私たちがもっと祈る生活になっているならば、「このようなよいことをする機会をくださったことを感謝します。」という祈りが先になるのではないのでしょうか。何かよいことをするとき、誰かのために自分が何かをする力が与えられたとき、それらによって高められることを望む無意識をできるだけ殺して、このように素晴らしいことを私にする機会をくださったことを感謝いたします と祈ることが誘惑に負けない一番大きな方法ではないのでしょうか。皆様、私たちは神様に属していることを望んでいるし、確かに属しています。しかし、それで終わりではなく、いつも狙われていることを意識しましょう。信仰の生活はある意味で自分との戦いであることをいつも意識していても無駄にはならないと思います。

今日、イエス様ははっきりおっしゃいました。

「御子を信じる人は永遠の命を得ているが、御子に従わない者は、命にあずかることがないばかりか、神の怒りがその上にとどまる。」(ヨハネ 3・36)

負けないように信仰的な緊張感を持ちましょう。

ありがとうございました。